保育士の保育の質に係る要因の検討
～バーンアウト傾向,勤続年数に着目して～

A study of factors related to the quality of childcare of childcare workers.
Focus on burnout trends and years of service.

○鈴木大喜　上市秀雄

Taiki Suzuki and Hideo Ueichi

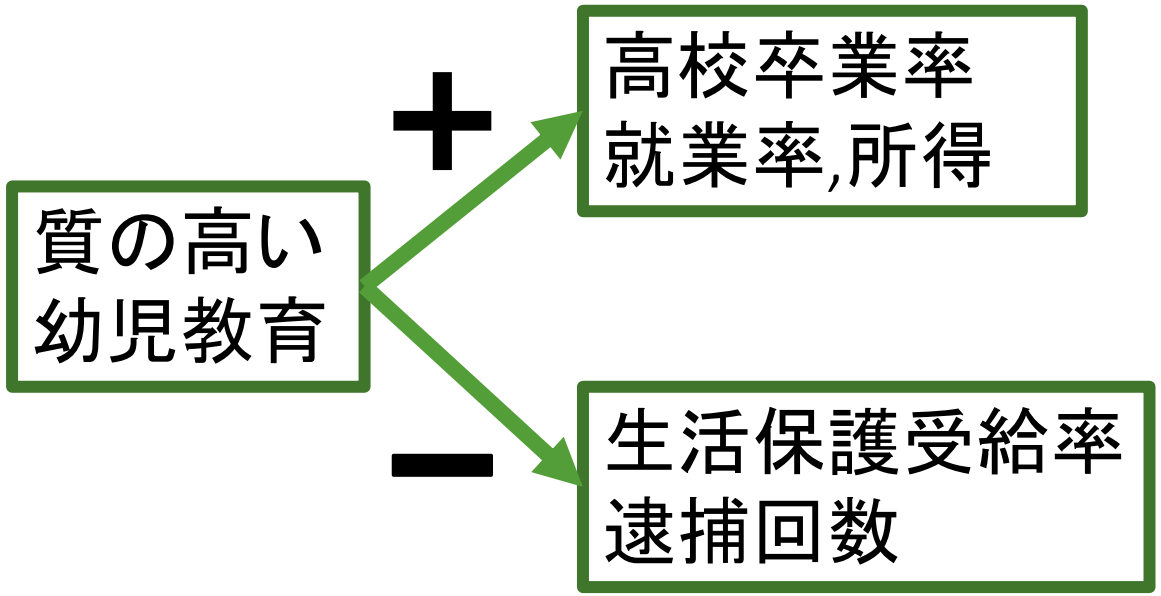
筑波大学理工情報生命学術院　筑波大学システム情報系

Graduate School of Science and Technology , University of Tsukuba ,
Faculty of Engineering. Information and Systems. University of Tsukuba

1.研究背景

・学術的背景

貧困対策を目的とし、低所得の黒人家庭3～4歳児の子どもたちを無作為に抽出し、週当たり12～15時間の教育を受けさせた後、40歳まで追跡調査を行った。（Heckman,2013）



質の高い幼児教育は
社会的に利益をもたらす
ということが明確に示された

日本では一般的に質の高い幼児教育が提供されている。

1.研究背景

・「保育の質」について

保育とは（厚生労働省,2018）
保育所における保育は、養護及び教育を一体的に行うこと

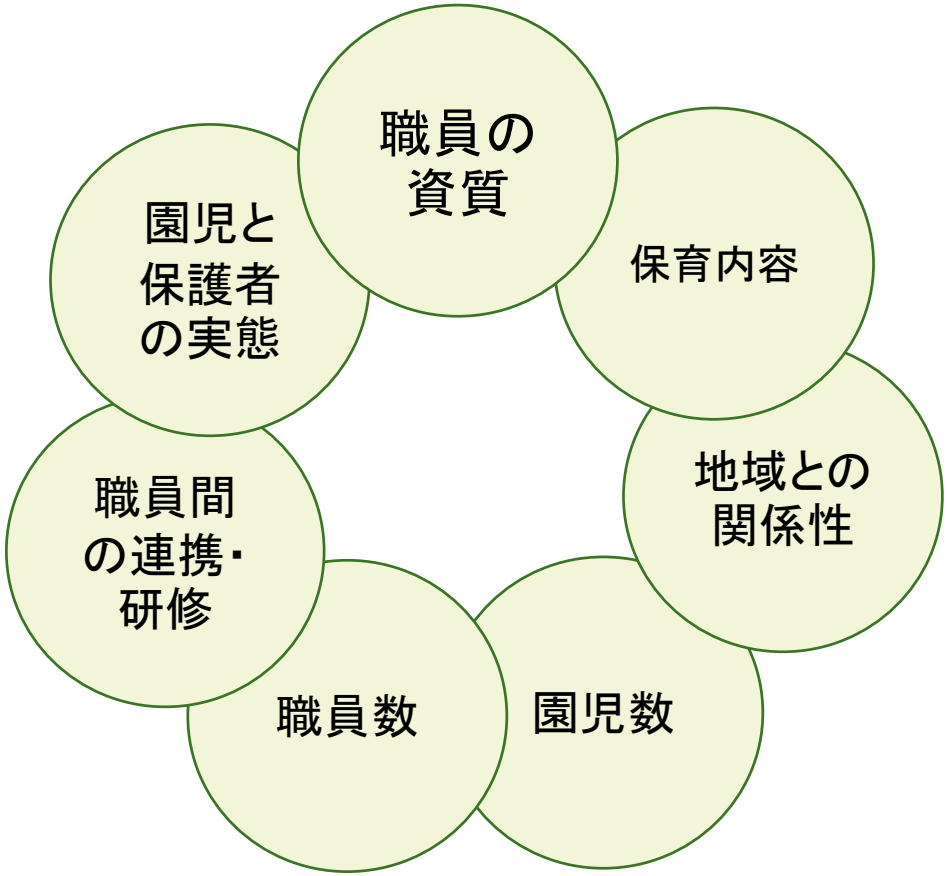
「保育の質」とは
・子どもたちが心身ともに満たされ、豊かに生きていくことを支える環境や経験（OECD,2015）
・多元的多様な次元の内容を含む概念であり、一元的に定義することができない（秋田ら,2011）

本研究では、保育士へのアンケート調査と幼児教育に関する研究を用いて「保育の質」の定義を行い、保育士間にどういった違いがあるか探る。

1.研究背景

・本研究における保育士の「保育の質」の調査方法
「職員の資質」を「気になる子への対応方法」にて測定

保育士へのアンケート調査
・「保育の質」とは7つの
キーワードによって構成されている。
（右図参照）
「職員の資質」に注目する。
・「保育の質」を不安に思う要因
「気になる子の増加」



1.研究背景

・本研究で取り扱う気になる子について

気になる子とは（刑部,1998）
保育園に長く在籍しているが、保育者から呼ばれても来なかったり、食事の準備においても一人でふらふらしていることが多く,トラブルを起こしては泣いている。

特徴①（木曽,2000）
保育士が保育上何らかの特別な支援が必要と認識

特徴②（木曽,2000）
発達障害の診断を受けていない

特徴③（木曽,2000）
発達障害が疑われる

本研究では,気になる子は社会的情緒能力が低いと仮定する。

2.先行研究

気になる子に関する研究

関係論的な分析によって、気になる子が集団になじめるまでのプロセスを明らかにした。

（刑部,1998）

バーンアウトに関する研究

保育士バーンアウト 下位尺度「情緒的消耗感」と感情労働方略「肯定的再評価」との負の相関を明らかにした。

（榊原,2017）

経験量に関する研究

保育士に子どもの事例を提示したとき、勤続年数が長いほどより多くの追加情報を求めることが明らかにされた。（高濱,2000）

上記3つの研究は、保育に関する研究となっているが
いずれの研究も「保育の質」については言及していない

3.研究目的および仮説

研究目的

・保育者自身のバーンアウト、経験量が保育者の「保育の質」に与える影響を検討する。

→保育者教育へ新たな知見を与える。

・いまだ不明確な部分が多い「保育の質」に係る要因を検討する。

→「保育の質」研究に新たな知見を与える。

仮説①
バーンアウトと
「保育の質」には関連がある。

仮説②
経験量と
「保育の質」には関連がある。

4.研究方法

調査対象

愛知県における現職の保育士8名

調査内容

・質問紙調査：保育者バーンアウト尺度（付録①参照）　3因子15項目　5件法

例：同僚,子供や保護者と何も話したくなくなることがある

フェイスシート（性別、年齢、保育士歴、勤続年数）

・インタビュー調査：「気になる子」の2事例を作成（梶田ら,1991）（高濱,2000）を参考

調査の流れ

4.研究方法

事例1

4歳の男児です。乱暴な行動に出ることがよくあります。
ある日、他の園児たちと一緒にお絵かきをしていると突然不機嫌になり、せっかく自分で描いた絵をぐちゃぐちゃにしてしまいました。（詳細は付録②参照）

事例2

4歳の女児です。いつも仲間から孤立しています。
ある日、お昼寝を済ました後、ほかの園児たちが全員おやつを食べ終えて片付け始めている中、女児はおやつを食べ終えることができず、一人だけ取り残されてしまいました。（詳細は付録③参照）

5. 研究結果　回答者の属性

	性別	年代	勤務形態	保育士歴	勤続年数	メタ認知	バーンアウト
A	女性	20代	正規職員	2	2	47	44
B	女性	40代	パートタイマー	13	3	51	34
C	女性	20代	正規職員	4	4	52	40
D	女性	40代	パートタイマー	20	4	50	35
E	女性	20代	正規職員	5	5	49	38
F	男性	30代	正規職員	10	9	48	42
G	男性	40代	正規職員	17	17	50	40
H	女性	30代	正規職員	18	18	55	46

5.研究結果

得られた対応方法：例 （複数名によって作成）

	事例1への対応方法			事例2への対応方法		
	絵を褒める	他害行為に注意する	落ち着ける場所へ移動する	観察見守る	おやつの量を調節	まず大人と遊べるようになる
A	○		○	○		○
B			○	○		
C			○		○	○
D	○					
E	○		○			○
F			○	○		○
G		○	○		○	○
H		○	○	○	○	

5.研究結果

バーンアウト項目の平均値による分類をしたところ,バーンアウト低い群にはバーンアウト高い群との違いが見られた。

事例1のインタビュー内容の違い：具体例

	Aさん：バーンアウト 高い群 勤続年数低い群	Bさん：バーンアウト 低い群 勤続年数低い群
事例1の対応方法 （インタビュー内容の抜粋）	…まず気持ちを落ち着かせたいので、落ち着くまでは完全に寄り添って、何も聞かずにとにかく空気感で受け止めるって言うか…	…上手に描けているよじゃないけど、（中略）そういう肯定的な言葉がけとかもしてあげて …

事例1のインタビュー内容において、バーンアウト 低い群では、
比較的多く「絵をほめる」という対応方法が見られた（付録⑤参照）

5.研究結果

保育士歴の平均値による分類をしたところ、勤続年数高い群には勤続年数低い群との違いが見られた

事例2のインタビュー内容の違い：具体例

	Aさん：バーンアウト 高い群 勤続年数低い群	Cさん：バーンアウト 高い群 勤続年数高い群
事例2の対応方法 （インタビュー内容の抜粋）	…まずは先生との信頼関係というか先生を頼れるようになれば良いと思う。…	…楽しいって気持ちをもっと味わわせてあげたほうがいいと思うので、この子が好きだと思うことをもっと観察の中で見つける。…

事例2のインタビュー内容において,保育士歴高い群では、
比較的多く「観察、見守る」という対応方法が見られた（付録⑤参照）

5.考察

仮説①について

保育者バーンアウト下位尺度
「情緒的消耗感」点数が低い

↓

感情労働方略「肯定的再評価」
との関連（付録⑦参照）

↓

「絵をほめる」という対応方法
との関連を推測

仮説②について

勤続年数が長い

↓

多様な対応方法の中から
より文脈に適したものを選ぶ

↓

より園児の観察が重要になる

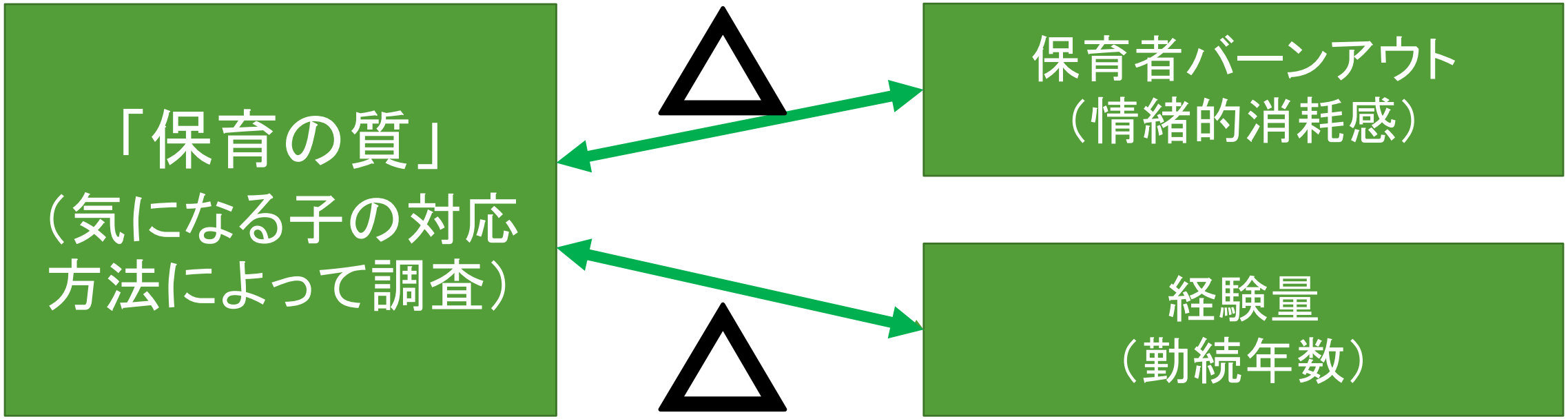
↓

「見守る」という対応方法との
関連を推測

事例①では、全員に共通して「落ち着ける場所へ移動する」という対応が見られた。
事例②では、G、H、を除き「まず園児と大人が遊べるようになる」という対応が見られた。よってこれらの対応は保育士にとってより一般的な対応だと思われる

6.まとめ

保育の質と関連する可能性がある要因について



暴れた子には「落ち着けるような場所へ移動する」という対応
孤立しがちな子には「まず大人と遊べるようになる」という対応が
多くの人に共通して見られた。

7.今後の課題

保育の質について

本研究での「保育の質」の定義および調査方法が妥当であるかどうかについては議論の余地がある。
また,保育の質の優劣について,本研究では考慮されていないので,今後考慮する必要がある

サンプル数について

より信頼性の高い結果を得ることや,定量的な分析を用いることなどを考慮すると,より多くのサンプル数が必要である。

参考文献

Heckman, James, Rodrigo Pinto, and Peter Savelyev. (2013). "Understanding the Mechanisms through Which an Influential Early Childhood Program Boosted Adult Outcomes." *American Economic Review*, 103 (6): 2052-86.

厚生労働省（2018）“保育所保育指針解説” https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000202211.pdf(最終閲覧日：2020/1/20)

茨城県庁保健福祉部子ども政策局子ども未来課（2019）“保育所等利用待機児童数について” https://www.pref.ibaraki.jp/soshiki/hokenfukushi/kodomo/documents/taikijidoutyosa_h31_1.pdf（最終閲覧日：2019/1/20)

厚生労働省（2019）“プレスリリース：「保育士確保集中取組キャンペーン」を実施します”https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/kodomo/hoiku/jinzaikakuho_torikumi.files/kakuho.pdf（最終閲覧日：2019/1/20)

OECD（2015）” Starting Strong IV: Monitoring quality in early childhood education and care. Paris” http://www.oecd.org/education/SSIV-press%20briefing-general.pdf（最終閲覧日：2019/1/20)

秋田 喜代美.箕輪 潤子.高櫻綾子(2008)"保育の質研究の展望と課題"東京大学大学院教育学研究科紀要 2008.47,289--305.

秋田,喜代美,佐川,早季子(2011),"保育の質に関する縦断研究の展望",東京大学大学院教育学研究科紀要 ,2012,51,217--234,本間 英治(2012),”保育の質に関する保育士の意識の実態”,保育学研究,2012,50,2 192-201

参考文献

刑部 育子(1998),“「ちょっと気になる子ども」の集団への参加過程に関する関係論的分析”,発達心理学研究,1998,9,1,1-11

Flavell, J. H. (1979). Metacognition and cognitive monitoring: A new area of cognitive–developmental inquiry. *American Psychologist, 34*(10), 906–911.

Schraw, G., & Dennison, R. S. (1994). Assessing metacognitive awareness. *Contemporary Educational Psychology, 19*(4), 460–475.

室町 祐輔,上市 秀雄(2014) 後悔対処メタ認知が後悔・対処法・適応的行動に及ぼす影響 日本心理学会第78 回大会発表論文集 1EV-1-099.

室町 祐輔.上市 秀雄(2015) メタ認知尺度作成の試み 日本心理学会第 79 回大会発表論文集,1PM-101.

石渡 崇晶(2019) 店頭販売員の接客業務における適応的熟達の分析－販売員・顧客の特性と周囲の状況要因に着目して－ 平成30年度卒業論文

Maslach, C., Jackson, S.E., & Leiter, M.P. (1996)” The Maslach burnout inventory (3rd ed)” Palo Alto, CA: Consulting Psychologists Press.

榊原 良太, 富塚 ゆり子, 遠藤 利彦（2017）,”子ども・保護者との関わりにおける保育士の認知的な感情労働方略と精神的健康の関連”, 発達心理学研究, 28, 1, 46-58

高濱 裕子（2000）,“保育者の熟達化プロセス：経験年数と事例に対する対応”, 発達心理学研究, 11, 3, 200-211

杉村 伸一郎, 桐山 雅子（1991）,子どもの特性に応じた保育指導, 教育心理学研究, 39, 1, 31-39

梶田,正巳　杉村,伸一郎 桐山,雅子 後藤,宗理 吉田,直子(1988),” <原著>具体的な事例へ保育者はどう対応しているか”,名古屋大學教育學部紀要 教育心理学科 (35), p111-136, 1988

木曽 陽子（2012）, “特別な支援が必要な子どもの保育における保育士の困り感の変容プロセス”, 保育学研究, 50, 2, 116-128

付録①　保育者バーンアウト尺度

保育士バーンアウト尺度（宮下,2010）　15項目　5件法

脱人格化因子　6項目

・同僚,子供や保護者と何も話したくなくなることがある
・同僚や子ども,保護者の顔を見るのも嫌になることがある
・今の仕事は自分にとってあまり意味がないと思うことがある
・自分の仕事がつまらなく思えて,仕方のないことがある
・仕事の結果はどうでもよいと思うことがある
・出勤するのが嫌になって,家にいたいと思うことがある

個人的達成感の後退因子　6因子

・我ながら,仕事をうまくやり終えたと思うことがある
・この仕事は自分の性格にあっていると思うことがある
・仕事を終えて今日は気持ちの良い日だったと思うことがある
・仕事が楽しくて,知らないうちに時間が過ぎることがある
・今の仕事に,心から喜びを感じることがある
・我を忘れて仕事に熱中することがある

情緒的消耗感因子　3項目

・身体も気持ちも疲れ果てたと思うことがある
・仕事のために心にゆとりがなくなったと感じることがある
・1日の仕事が終わると「やっと終わった」と感じることがある

付録②　気になる子の事例

事例１
4歳の男児です。活発で友達とよく遊びますが,強引に自分の思うようにします。身体が大きいので,腕力に訴えて友達を負かせ,泣かせることがしばしばあります。先生のいいつけが聞けないことも多く,乱暴な行動に出ることがよくあります。

ある日,他の園児たちと一緒にお絵かきをしていると突然不機嫌になり,その場で暴れ始めました。他害行為には至っていませんが,せっかく自分で描いた絵をぐちゃぐちゃにしてしまいました。

周りの園児たちはその様子にすこし怯えています。

付録③　気になる子の事例

事例２
4歳の女児です。先生や友達に対してほとんど話しかけません。非常に内気な感じの子どもです。いつも仲間から孤立していて,遊びの中にはいっていくことがあまりありません。先生に甘えてくるということもあまりありません。一緒にほかの子と遊ばせようとするのですが,すぐひとりになってしまうことが多いです

お昼寝を済ました後,園児たちはおやつを食べ始めました。ほかの園児たちが全員おやつを食べ終えて片付け始めている中,女児はおやつを食べ終えることができず,一人だけ取り残されてしまいました。

少し離れたところで,複数の園児たちがその様子を観察しています。

付録④　回答者の群分け及び分析で用いたクロス集計表

	勤続年数 （平均値：7.75）	バーンアウト （平均値:39.88）
高い群	F,G,H	A,C,F,G,H
低い群	A,B,C,D,E	B,D,E

	「絵をほめる」という対応方法あり	「絵をほめる」という対応方法なし
バーンアウト高い群	1	4
バーンアウト低い群	2	1

	「観察、見守る」という対応方法あり	「観察、見守る」という対応方法なし
勤続年数高い群	2	1
勤続年数低い群	2	4

付録⑤　インタビュー内容の違い

	事例1	事例2	印象に残った子
A	・自分の気持ちを表現できないのではないか ・男児の気持ちを代弁する	・付きまといに注意する ・選択肢を提示する ・量の調整 ・信頼関係を作る	（切り替えが難しい） ・事前にスケジュールを伝える ・視覚的に伝える
B	・自信がないのではないか ・表現の仕方を一緒に考える ・絵を褒める	・楽しい気持ちを持たせる ・選択肢を提示する	（切り替えが難しい子） ・事前にスケジュールを伝える
C	・周りに認められていないのではないか ・役割を与える ・暴れたことには触れない	・楽しい気持ちを持たせる ・どんな遊びが好きか観察する ・一人が悪いことじゃない ・周囲の子供の話を聞く ・見守る	（集団に参加できない） （こだわりが強い） ・短時間のみ参加 ・保護者理解を得るのが難しい
D	・他害行為に注意する ・周囲の子供の話をきく	・保育士との信頼関係を作る ・見守る ・量の調整 ・褒める	（切り替えが難しい） （こだわりが強い） ・事前にスケジュールを伝える ・成長は緩やか

付録⑥　インタビュー内容の違い

	事例1	事例2	印象に残った子
E	・他害行為に注意する ・信頼関係を作る ・暴れたことには触れない	・どんな遊びが好きか観察する ・見守る ・量の調節	（集団に参加できない） （切り替えが難しい） ・事前にスケジュールを伝える ・視覚的に伝える
F	・見守る ・表現の仕方を一緒に考える ・絵を褒める	・楽しい気持ちを持たせる ・見守る	（自分の気持ちを表現できない） （集団に参加できない） ・信頼関係を作る
G	変化なし	・他害行為に注意する ・スキンシップをとる	・よく観察する
H	変化なし	・信頼関係を作る ・絵を褒める	・一人が悪いことじゃない

付録⑦

感情労働方略について（榊原,2017）

日本語版認知的感情制御尺度(Cognitive Emotion Regulation Questionnaire:CERQ)を用いて測定された。
そのうち「肯定的再評価」とは,
「個人の成長という観点から出来事にポジティブな意味を置く思考」とされている。
（例：私は起きた出来事によって，より強い人間になれると考える）

「保育の質」に関するアンケート調査について（本間,2010）

保育士が捉えている保育の質とは,以下の7つのキーワードで構成されている。
「園児と保護者の実態」「保育内容」「地域との関係性」「職員数」「園児数」
「職員間の連携・研修」「職員の資質」
また保育の質について不安に思う要因として80人中55人が「気になる子の増加」を挙げた。